

令和4年度
事業報告

社会福祉法人

飯塚市社会福祉協議会

事業の総括

新型コロナウイルスの感染症も3年目となった令和4年度は、社会に自粛と感染への不安に倦厭と疲労感が強く感じられるようになったのと同時に、新しい生活スタイルが徐々に浸透定着しているのが感じられるようになりました。そのような中であるからこそ、地域福祉と介護福祉事業の重要性を再確認しながら、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」に向け、新型コロナ収束後を見据えながら、各種事業に取り組んでまいりました。

主な事業実績は、次のとおりです。

- (1) 地域福祉関連事業では、新型コロナウイルス感染の収束の見通しが立たない中、各地区での地域福祉活動の促進のため、コロナ禍での「ふれあい・いきいきサロン」のあり方や活動に関して、お世話人さんへアンケート調査を行った内容を基に、「コロナ禍においても活動を止めないために」という冊子を作成しました。

また、「生活習慣」が大きく見直される中で、生活に不安を抱える方々の「孤立化」を防ぐ取り組みとして、地区社協や自治会、民生委員・児童委員、福祉委員の皆さんの協力を得ながら、見守り活動の在り方について連携した取り組みを行いました。

また、自立支援と相談・援助につきましては、特に、判断能力の低下した方への福祉サービスが円滑にすすめられるよう、身近な相談窓口として迅速かつきめ細やかな支援に努めました。

日常生活自立支援事業や法人後見事業を通じて、普段と変わらず着実に取り組みを行いました。ボランティア活動や福祉教育の推進につきましても、感染予防対策を講じながら関係機関や団体の皆さんと共に連携して取り組みをすすめました。

そして、社会福祉法人の公益活動として結成された「飯塚市社会福祉法人地域公益活動連絡協議会」では、各法人のもつ強みを生かしてコロナ禍においても実践可能な福祉に関わる地域貢献活動に取り組みました。

- (2) 介護保険等関連事業では、新型コロナウイルス感染症流行下において、徹底した基本的感染予防対策を図るとともに、県が実施する抗原定性検査キット配布事業を活用し、全職員が週2回の検査を行うことで事業所内感染予防対策を一層強化し、安心・安全なサービスの提供に努めました。

また、利用者及び従業者の人権擁護のため、虐待防止委員会・身体拘束等適正化委員会を立ち上げ、「虐待・身体拘束の防止・発生時の検証・再発防止」に向け、職場全体での取り組みを開始しました。

さらに、業務改善への取り組みとして、県が実施するICT（情報通信技術）導入支援事業費補助金の交付を受け、介護ソフトの導入を行うとともにタブレットやモバイルパソコンを購入し、記録業務の負担軽減や事務作業の簡略化及びペーパーレス化を進めることで、今まで以上に働きやすい職場環境作りに着手しました。

- (3) 法人運営関連事業では、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業や失業等により生活が困窮した人たちを対象に、生活福祉資金のうち「緊急小口資金」及び「総合支援資金」を特例で貸し付ける業務（県社協委託）を令和4年9月まで実施してまいりました。

また、地域福祉の前線に立つ社協職員の感染予防・防止対策等、感染リスク軽減に向けた取り組みなど、後方支援活動にも前年度同様に努めてまいりました。

1. 地域福祉関連事業

(1) 社会福祉法人の地域公益活動の取り組み（飯塚市社会福祉法人地域公益活動連絡協議会）

飯塚市内にある児童・障がい者・高齢者・地域福祉の4分野の社会福祉法人が集まって結成された飯塚市社福連は、「地域における公益的な取り組み」を行うために平成29年10月に設立されて以来、本会が事務局を務め、現在では26法人が加入しています。

今年度は、地域貢献事業として、小中学校の福祉体験授業などへの支援や地域防災活動への支援を行いました。

(2) 生活支援体制整備事業の推進

地区担当の生活支援コーディネーターが、地区（校区）社協、ネットワーク委員会、自治会、民生委員・児童委員、福祉委員、老人クラブ、包括支援センターなどに呼びかけて協議体を組織し、福祉座談会やアンケート調査などを通して地域の福祉課題を抽出するとともに、地区の社会資源調査・担い手の育成・元気高齢者の社会参加など、多様な主体からサービスが提供できるような仕組みづくりを協議しました。

第1層協議体（1回目：書面会議 2回目：2/13）

→第2層協議体に取り組んでいる情報を共有した。第2層協議体で解決困難な課題があれば、第1層で協議をしていくことを確認した。

第2層協議体 →地区社協、ネットワーク委員会を中心に社会参加による支え合いの体制整備に努めました。

地域における高齢者の社会参加と生きがいづくり、健康づくりの場である「ふれあい・いきいきサロン」の再開に向けた活動に努めました。

(3) ふくおかライフレスキュー事業の取り組み

生計困難者が公的な制度やサービスなどを受けられるようになるまでの間、必要に応じてライフラインの復旧や一時的な食事の提供、ならびに関係機関との連携会議などを通して支援を行いました。令和4年度の本会の支援件数は8件でした。

(4) 小地域福祉活動（地域福祉活動計画の推進）

① 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会活動との協働

小地域福祉活動推進の基盤となる実践として、市内18ヶ所の地区社協、20ヶ所の地域福祉ネットワーク委員会の活動を日常的に支援しました。具体的な活動としては、ふれあい・いきいきサロン、福祉委員研修会、ねんりんバスハイク、ひとり暮らし高齢者会食会、ふれあい電話、長寿弁当、グラウンドゴルフ大会、男性料理教室、三世代ウォーキングなどが取り組まれています。

令和4年度も、新型コロナウイルス感染の懸念がありましたが、十分に予防対策を行いながら活動を推進しました。

② 福祉委員活動（地区別福祉委員研修会）

市内全域に配置している福祉委員（延べ約570人）の活動強化を図り、地域の要援護者見守りネットワークの活動を支援するため、福祉委員、民生委員・児童委員、自治会長、地域福祉ネットワーク委員会委員、地区社協役員などを参加対象として、例年市内13ヶ所の地区で、年間2回ずつ福祉委員研修会を実施しました。

また、多数福祉委員が在籍する地区につきましては、少人数に分け研修会を実施しました。

③ 「ふれあい・いきいきサロン」活動

「ふれあい・いきいきサロン」（市内184か所）について、その代表者や世話人を対象に、サロン活動の充実・発展に資する情報の提供や交流に関する「ふれあい・いきいきサロンお世話人研修会」を12月2日、穂波交流センターで、午前、午後に分け開催しました。また、世話人の高齢化に伴い休会するサロンも出てきています。

コロナウイルス感染予防対策を行い、孤立化を防ぐため少しずつではありますが、サロン活動の再開を目指し、各地区（校区）社協を通じて、サロンへの助成金の交付も行いました。

（5）認知症サポーター養成講座

飯塚市の受託事業として「認知症サポーター養成講座」を継続して取り組みました。令和4年度は、延べ28回の講座を開催し、515人のサポーターを養成しました。（延べ11,882人）新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、講座を開催しました。

受講団体名	開催日	参加者(人)
脳元気教室：穂波	4/18	23
翔葉	6/9	8
脳元気教室：鎮西	6/13	15
庄内仁保地区	6/15	4
颯田小学校4年生	6/22	40
市民講座①：立岩	6/25	12
穂波地区福祉委員	6/21	30
二瀬地区民生委員	7/13	28
近畿大学九州短期大学	11/25	39
飯塚市高齢介護課③	11/29	16
脳元気教室：鯉田	1/10	24
くぬぎ苑どんぐりカフェ	1/16	12
(株)GOLDSEAHOLDINGS①	1/18	27
鎮西地区福祉委員研修会	1/22	19

受講団体名	開催日	参加者(人)
認知症の人と家族の会	8/20	13
脳元気教室：筑穂	9/1	28
市民講座②：庄内	10/1	6
飯塚東地区福祉委員	11/14	29
飯塚市高齢介護課①	11/22	18
イオン穂波店①	11/24	9
イオン穂波店②	11/24	10
飯塚市高齢介護課②	11/24	14
(株)GOLDSEAHOLDINGS②	1/26	27
市民講座③：穂波	1/28	7
(株)GOLDSEAHOLDINGS③	2/3	19
(株)GOLDSEAHOLDINGS④	2/13	14
(株)GOLDSEAHOLDINGS⑤	2/21	15
かいた包括支援センター	3/17	9

フォローアップ研修

過去に認知症サポーター養成講座を受講した方を対象にフォローアップ研修を行いました。キャラバンメイト（サポーターを養成する指導者）を対象としたフォローアップ研修は、「ZOOM」を活用した講座の進め方を講師から学びました。

対象者	開催日	参加者 (人)	講師
キャラバンメイト フォローアップ研修	3/22	10	「ZOOMを使った認知症サポーター養成講座について」 講師：特別養護老人ホームくぬぎ苑 本村健祐氏
認知症サポーター フォローアップ研修	11/19	14	「認知症サポーター養成講座フォローアップ研修」 講師：ケアハウス ジョイハート 施設長 久家 義明氏

(6) 権利擁護センター事業

権利擁護センターでは、認知症や知的障がい、精神障がいなどにより、判断能力が不十分な人を福祉的側面から支援する「日常生活自立支援事業」と、法的な側面から本人の権利を守り生活を支援する「法人後見事業」を行いました。

利用者の推移など

ア 新規利用者数

〔権利擁護事業〕 24人（令和4年度・利用者数：82人）／解約者15人

〔法人後見事業〕 なし（令和4年度・利用者数：3人）／終了者0人／類型：後見1人・

保佐1人・補助1人

イ 新規相談者数 25人

ウ 年間延べ相談援助件数 2,720件

エ 新規生活支援員育成者数

0人（令和4年度・生活支援員数：9人）

オ 運営審議会の開催

6回（5/13、6/24、8/17、10/18、12/22、2/22）

ケース検討会議 1回（11/22）

カ 本所・支所の利用者数

（単位：人）

	本所	穂波支所	筑穂支所	庄内支所	穎田支所	計
ほっとサービス	12	3	1	0	0	16
日常生活自立支援	34	19	3	2	5	63
法人後見	1	1	0	0	1	3
計	47	23	4	2	6	82

(7) ボランティアセンター事業

① ボランティアに関する相談・紹介などコーディネート業務

個人・団体より相談を受け、186件のコーディネートを行いました。

② ボランティアの養成

ア 手話奉仕員養成講座（入門課程）

4月7日から8月25日（通算20回 毎週木曜日）、飯塚市の委託を受けて飯塚市聴覚障害者協会・飯塚市手話の会の協力により30人の受講者を得て開催しました。

修了者：27人

イ 手話奉仕員養成講座（基礎課程）

9月8日から2月9日（通算22回 毎週木曜日）、飯塚市の委託を受けて飯塚市聴覚障害者協会・飯塚市手話の会の協力により29人の受講者を得て開催しました。

修了者：24人

ウ 音声訳ボランティア養成講座

視覚障がい者の方々に各種印刷物や図書などをテープ・CDとして作成した情報を提供する「音声訳（朗読）ボランティア講座」を下記のボランティア団体の協力を得て開催しました。

- ・音訳いづか 講座 6月に開催 受講者4人 修了者2人
- ・声のボランティアサークル 穂声 講座10月に開催 受講者4人 修了者4人

エ 点訳ボランティア養成講座

視覚障がい者の方々に暮らしに関わる情報提供を行う「点訳ボランティア養成講座」を下記のボランティア団体の協力を得て開催しました。

- ・点訳ボランティア キャンドル 講座 2月に開催 受講者2人 修了者1人
- ・点訳 さくら 講座 3月に開催予定していましたが中止となりました

オ ボランティア養成研修

新型コロナウイルス感染予防のため、開催することができませんでした。

③ ボランティア活動保険

保険に関する相談、受付、加入手続き、事故処理、調整を行いました。

ボランティア活動保険（加入者数2,041件）

④ 移送支援事業

利用者と運転ボランティアのコーディネート

利用登録者20人に対し、運転ボランティア4人、ボランティアセンター職員2人により年間延べ142件の移送支援を行いました。

⑤ ボランティア活動の推進

ボランティア団体の育成および連絡協議会への支援

飯塚市ボランティア連絡協議会として、各地区のボランティア連絡協議会およびそれに所属するボランティア団体の活動を支援しました。

(8) 障がい者福祉活動の推進

① 障がい児者バスハイク

今年度は新型コロナウイルス感染対策を行い、障がい児者間の交流やボランティアとの交流を図るためのバスハイクを3月5日(日)に開催しました。

参加者は、39人で、大川市(木工体験)と柳川市(会食と買い物)へ行きました。

② 飯塚国際車いすテニス大会、田川車いすラグビー大会の支援

毎年、国内外の身体障がい者間のスポーツの交流や相互理解などを目的とした車いすテニス大会に対して大会出場選手に対する送迎などの支援を行いました。また、田川で開催された車いすラグビー大会出場選手に対する送迎の支援も行いました。

③ さわやかスポーツ大会

毎年、飯塚市が主催するさわやかスポーツ大会の実行委員として、大会運営を支援していましたが、今年度は大会自体が中止になりました。

(9) 子育て、児童・青少年福祉活動の推進

子育て分野の事業として当事者同士の交流を目的とした「子育てサロン・おやつとこっと」を開催しました。開催地区の民生委員・児童委員や主任児童委員をはじめ、ボランティアの方々の協力を得て年11回サロンを開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止することもありましたが、延べ62組137人の参加がありました。

(10) その他の地域福祉活動

- ① 社協だよりの発行、年3回(6月、11月、2月)
- ② 10月16日(日)「みんなの健康・福祉のつどい2022」
- ③ 福祉関係団体への運営費助成および事業支援
- ④ 心配ごと相談所運営(相談件数17件)
- ⑤ 福祉用具貸し出し(車いす・松葉杖)延べ213件
- ⑥ 共同募金運動への協力

(11) 支所地域福祉推進事業報告・・・別記のとおり

- ・飯塚エリア・・・10ページ
- ・穂波エリア・・・12ページ
- ・筑穂エリア・・・14ページ
- ・庄内エリア・・・16ページ
- ・潁田エリア・・・18ページ

2. 介護保険等関連事業

(1) 介護保険事業

① 居宅介護支援事業

- ・ケアプラン作成、管理年間延べ件数 3,924件
[飯塚支所] 1,870件 [穂波支所] 2,054件

② 介護予防居宅介護支援事業

- ・予防プラン作成、管理年間延べ件数 616件
[飯塚支所] 304件 [穂波支所] 312件

飯塚支所は、ケアマネジャーの退職により1名減の体制でスタートしました。

穂波支所は、新型コロナウイルス感染症による入院や死亡者が増えたことや、地域に入所施設が増設され入所者が増えたことなどから、年間延べ件数の昨年度比は両事業所で458件減りました。

③ 訪問介護事業

- ・年間延べ派遣回数 11,313回
[飯塚支所] 6,660回 [穂波支所] 4,653回

④ 介護予防訪問介護事業

- ・年間延べ派遣回数 6,044回
[飯塚支所] 2,431回 [穂波支所] 3,613回

飯塚支所、穂波支所ともに、新型コロナウイルス感染症の影響から、新規利用者数より中止者数が上回りましたが、年間延べ派遣回数の昨年度比は合計436回増えました。

⑤ 通所介護事業 [筑穂]

- ・年間延べ利用者数 6,681人

⑥ 介護予防通所介護事業 [筑穂]

- ・年間延べ利用者数 2,308人

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、年間延べ利用者数の昨年度比は1,032人増えました。しかし物価高騰による水道光熱費や消耗品費の値上がりの影響も受けました。

⑦ ユニット型小規模介護老人福祉施設 [筑穂桜の園]

- ・入所定員 30人

令和4年度は、令和3年度の制度改正により利用料負担増の方が増えた事が原因で、新規の入所申込者が減少し、1日の平均利用者数は26名となり、昨年度より3名減りました。

⑧ 短期入所生活介護事業 [筑穂桜の園]

- ・年間延べ利用人数 971人

新型コロナウイルス感染症の影響により、他施設が短期入所閉鎖となり9月以降の新規利用者が増え、昨年度比は229名増えました。

(2) 地域支援事業

① 穂波東地域包括支援センター

- ・総合相談年間延べ件数 473件
- ・包括的、継続的ケアマネジメント年間支援件数 70件

- ・指定介護予防サービス年間実績件数 1,167件（穂波東包括：842件 委託先居宅：325件）
- ・介護予防ケアマネジメント年間実績件数 1,097件（穂波東包括：808件：委託先居宅：289件）
- ・福祉サービス代行申請年間延べ件数 22件
- ・運営推進会議年間延べ回数 13回（うち書面照会3回・中止4回）

総合相談や市及び居宅支援事業所などからの、虐待や困難ケース及び認知症初期集中支援調整など、日々様々な相談に対応してきました。職員の退職などにより、3職種（社会福祉士・看護師・主任ケアマネジャー）もプランを作成するなど、業務負担の大きい年度となりました。

② 筑穂地域包括支援センター

- ・総合相談年間延べ件数 450件
- ・包括的、継続的ケアマネジメント年間支援件数 58件
- ・指定介護予防サービス年間実績件数 1,187件（筑穂包括：753件 委託先居宅：434件）
- ・介護予防ケアマネジメント年間実績件数 971件（筑穂包括：668件 委託先居宅：303件）
- ・福祉サービス代行申請年間延べ件数 19件
- ・運営推進会議年間延べ回数 21回（うち書面照会4回・中止11回）

令和4年度の筑穂地区の高齢化率は39%と高く、年々相談件数が増加しています。土地がら山間部が多く広範囲であり、1件の相談に時間を要し、また身寄りのない方の相談も増えています。

③ 食の自立支援事業（配食サービス）[筑穂]

- ・年間延べ配食数 9,632食

令和4年10月より、手数料40円、利用者負担20円の増額となりました。

また利用件数の増加に伴い厨房の対応が困難となり、令和4年度より穂波地区の新規利用者については対象外となりました。昨年度比は185食減りました。

④ 高齢者住宅等安心確保事業（シルバーハウジング生活支援員派遣事業）

- ・入居者数 24戸

令和4年度は、生活支援員2名が新しい職員でのスタートとなりました。

入居者の方が安心して生活できるよう、朝夕の見回りや声掛けを行い、必要時には軽微な援助や相談などを行いました。

(3) 障害福祉サービス事業

① 訪問介護事業

- ・年間延べ派遣回数 6,917回
[飯塚支所] 4,011回 [穂波支所] 2,906回

高齢介護に比べ中止者が少ないことから、派遣回数が増加に繋がっています。
また同行援護サービス（視覚障害者の外出支援）の新規依頼が増え、年間延べ派遣回数は前年度より658回増えました。

② 相談支援事業

- ・ 計画作成、管理年間延べ件数 160件
[飯塚支所] 60件 [穂波支所] 100件
相談支援専門員4名は他職種との兼務ですが、市や基幹相談支援センターなどからの相談にも真摯に対応しました。

③ 児童デイサービス [筑穂]

- ・ 年間延べ利用者数 1,929人
利用児童及びスタッフが同時期に新型コロナウイルス感染症の陽性者になったことで、他部署への応援依頼を行い、また安全面から利用人数の制限を行うなど、安心して通所できるよう努めました。年間延べ利用者数の昨年度比は67人増えました。

④ 障がい者支援センター [筑穂]

- ・ 年間延べ利用者数（生活介護） 1,168人
8月、12月に多数の利用者が、新型コロナウイルス感染症の陽性者や濃厚接触者になりましたが、年間延べ利用者数は昨年度に比べ38人増えました。

(4) 地域生活支援事業

移動支援事業 [飯塚]

- ・ 年間延べ派遣回数 33回
令和4年度は新規利用者が1名増え3名となり、昨年度比は20回増えました。

(5) 制度外サービス事業

- ・ 年間延べ派遣回数 115回
[飯塚支所] 76回 [穂波支所] 39回
介護保険制度、障害者総合支援制度、地域支援事業などの制度を補完するサービスとして本会が独自に実施している事業です。制度では対応できない部分の生活援助や外出介助および通院介助、家族不在時の見守り支援などを行いました。

3. 法人運営関連事業

(1) 筑穂保健福祉総合センターの管理運営

- 飯塚市との協定書に基づき、住民の健康増進と福祉の拠点として管理運営を行いました。
なお、各種機材の買い替えや修繕、建物の改修か所の増加などで施設管理費の捻出が年々増え続け、運営が厳しい状況となっています。
- ・ 健康運動室年間延べ利用者数 5,872人
 - ・ 会議室など年間延べ利用回数 371回

(2) 飯塚市福祉センター伊川の郷の管理運営

伊川温泉の施設として市民の憩いの場を提供するため管理運営を行いました。

一方で、同施設の運営経費を賄うレース場自販機の収益が激減する中、今後の経営状況の深刻化が懸念されるなど、その対応が喫緊の課題となっています。

- ・ 飯塚市福祉センター伊川の郷年間延べ来館者数 3,623人
- ・ シルバー陶芸教室年間延べ利用者数 761人

(3) 生活福祉資金貸付事業

令和4年度は、年間延べ相談受付件数668件（うちコロナ特例貸付388件）、年間延べ申込み件数292件（うちコロナ特例貸付261件）、年間延べ決定件数291件（うちコロナ特例貸付261件）となっています。

(4) 筑豊地区福祉人材バンク

福岡県社協から事務委託を受けている事業で、福祉人材無料職業紹介所として、福祉の仕事を希望する人と人材を必要とする社会福祉施設・事業所等の福祉職場をつなぐ目的で、新規求人数726人、新規求職者数25人、インターネットアクセス数2,740件、応募・紹介者数15人、就職者数2人、求人求職相談件数383件でした。

(5) 収益事業

自主財源の確保策として以下の収益事業に取り組みました。

- ① 飯塚オートレース場に自動販売機設置・・・ 3,003,593円（10台）
- ② 社協だよりへの有料広告掲載・・・・・・・・ 96,000円（4件）
- ③ 社協公用車への有料広告掲載・・・・・・・・ 180,000円（3件：3台）

◎飯塚エリア 地域福祉推進事業報告

(1) 高齢者福祉活動の推進

① 赤い羽根ねんりんバスハイク・一人暮らし高齢者会食会

感染予防対策を行いながら、4地区社協で、一人暮らし高齢者、高齢者世帯の方々を対象に行うバスハイクや一人暮らし高齢者会食会をお弁当の配布事業に切り替えるなどの工夫を行い実施することを支援しました。

② 赤い羽根ふれあい給食サービスの実施

6地区社協で、一人暮らし高齢者を対象に行う配食サービスを支援していますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年通りに行うことは出来ませんでした。

③ 在宅介護者の会「つくしの会」活動の支援

在宅で寝たきりの方や認知症高齢者を抱える介護者の会（毎月開かれる定例会・研修会・リフレッシュ行事など）に参加し助言や支援など今年度は年10回支援をしました。

(2) 児童・青少年福祉活動の推進

福祉体験や総合学習の支援

児童・生徒を対象に、障がい者や高齢者への正しい理解と知識を深める事を目的として、手話や点字、車いすの操作や認知症の理解、障がい者との交流など、福祉教育の充実を図るため、市内の小中学校と協力して支援を行いました。

(3) 地区（校区）社協との連携と地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動の支援と推進

ボランティアや民生委員・児童委員、福祉委員、自治会長を中心に1～2ヶ月に1回程度実施されているサロン開催に向けて、さまざまな趣味や特技や資格をもった「特技ボランティア」を求め、登録のうえ、紹介を行いました。

② 地区「ふれあい電話」活動の推進

地区社協によっては、地域において見守りが必要な一人暮らし高齢者、高齢者夫婦の方々を対象にした「ふれあい電話相談」の活動を推進しました。

③ 地域ふれあい活動事業の実施

コロナウイルス感染予防のため、地区社協を基盤とした、親子球技大会、グラウンドゴルフ大会、ウォークラリー大会、どんど焼き祭りなどの活動は、少人数での開催を行うなど新たな取り組みを行いながら、事業を進めました。

④ 福祉委員の設置推進

福祉委員を配置し、見守りが必要な一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、障がい児者などの訪問活動を支援しました。

⑤ 福祉委員研修会の開催

福祉委員研修会については、市社協主催1回と各地区（校区）社協主催1回の合わせて年間2回の研修会を行っていますが、新型コロナウイルス感染対策を十分に行い、9地区開催することが出来ました。

⑥ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会との連携強化

9地区社協で開催されるネットワーク委員会に参加し、連絡調整ならびに事業推進の支援を行いました。

⑦ 民生委員・児童委員協議会との連携

9地区で毎月開催される民生委員・児童委員協議会の会議に出席し、地域の要援護者ケースに係る検討会へ参画しました。

(4) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

② 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金の協力を行いました。

③ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、心配ごと相談所を隔月1回開設しています。飯塚本所・穂波支所・庄内支所奇数月に開催、穎田支所・筑穂支所は偶数月に開催しました。

(5) 各地区まちづくり協議会への参画

各地域コミュニティの構築と活性化に向けて設立された「まちづくり運営協議会」に、協力団体として、会議に出席し、組織運営・事業内容の打ち合わせや地域課題とその解決策などについて協議に参画しました。

◎穂波エリア 地域福祉推進事業報告

(1) 高齢者福祉活動の推進

① 在宅介護者の会「かたらい」の活動支援

毎月第3水曜日を定例会とし、会員のリフレッシュを目的として開催しています。情報交換をはじめ、施設見学や講演会への参加も計画していましたが、新型コロナウイルス感染症のため、休会した月もありました。

② 一人暮らし緊急入院「安心箱」の推進

利用件数 1 件

(2) 障がい者福祉活動の推進

① テレホンサービス事業

声のボランティアサークル「穂声（すいせい）」に毎週いろいろな内容をテープに吹き込んでもらい、フリーダイヤルで視覚障がい者への情報提供を行いました。

② 市報などのテープ吹き込み配布事業（音訳）

声のボランティアサークル「穂声（すいせい）」が社協だよりの吹き込みを行いました。さらに、交流センターだよりや支所だより、その他の情報をテープに吹き込み・ダビング・発送の一連の作業も行いました。

(3) 児童・青少年福祉活動の推進

① 社会福祉推進校事業の推進

穂波支所管内の各小学校と連携して車いす体験、アイマスク体験、手話や点字の講習、高齢者疑似体験、環境福祉などについて児童に対する理解を深める授業に年間4回参加しました。

② 春休み福祉体験校の開催

穂波地区の各小学校へ参加募集を行い、6名の参加者で車いす生活者の話し、車いす体験、点字体験など障がい者福祉について学習しました。

③ 子育て広場の開催

子育て支援として同じ世代のお子さんを持つ親同士の友達作りの場と子どもとのスキップの取り方などを学ぶという二つの目的をもって開催しています。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、募集定員を縮小し、年11回の開催で平均10組の親子の参加がありました。

(4) 地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動への支援と推進

新型コロナウイルス感染の影響もあり、開催されるサロンは少なくなりましたが、会場である自治会公民館などのサロンに出向き、講話やビデオ上映会、レクリエーションなどを行ったり、サロン特技ボランティアやその他の講師の派遣調整を行いました。

② 校区社協活動の支援

各校区社協の事業企画・実施の支援ならびに活動費の助成を行いました。

③ 福祉委員活動推進と強化

毎月第3火曜日に定例会を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7回の開催となりました。「権利擁護事業及び赤い羽根共同募金」をテーマとした研修と「コロナ禍での訪問活動について」の資料を配布し、情報提供を行いました。

④ 自治会長会との連携

年間3回出席し、赤い羽根共同募金や賛助費、各事業への協力依頼を行いました。

⑤ 民生委員・児童委員協議会との連携

定例会へ参加し、各事業実施のための調査や調整、配布物の依頼などを行いました。

⑥ 校区社協連絡会の開催

穂波地区内の6校区の社協会長・副会長・事務局長に参加をいただき、本会の令和5年度新規事業の「介護予防事業」重点活動をテーマに研修会を開催しました。

⑦ 地域福祉講座

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止しました。

(5) ボランティア活動の推進

① ボランティアなど連絡協議会との連携

第3木曜日の定例会資料の作成、ボランティア団体への連絡調整ならびに年1回発行しているボランティア情報誌の編集などの支援を行いました。

ボラ連主催行事の「We Love 穂波川」は、新型コロナウイルス感染予防のため、ボランティア団体の代表者で実施しました。

(6) その他の活動の推進

① 穂波地区福祉賛助費

穂波地区の福祉活動を促進するため、賛助費募金について全戸にチラシを配布し、協力依頼しました。令和4年度穂波地区福祉賛助費 893,163円

② 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

③ 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。

④ 心配ごと相談の実施

民生委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、隔月1回の心配ごと相談所を開設していますが、新型コロナウイルス感染予防を行いながら、年間6回行いました。

⑤ 支所だよりの発行

年間4回（5月15日、8月15日、10月15日、1月15日）発行しました。

(7) 穂波地区まちづくり協議会への参画

穂波地区地域コミュニティの構築と活性化に向けた取り組みとして、穂波交流センターの働きかけにより設立された校区まちづくり運営協議会に協力団体として出席し、組織運営・事業内容の打ち合わせや地域課題とその解決策などについての協議に参加しました。

◎筑穂エリア 地域福祉推進事業報告

(1) 高齢者福祉活動の推進

① ひまわり友の会（一人暮らし高齢者会食会）の開催

民生委員・児童委員に調査を依頼し、75歳以上の一人暮らしの方を対象に、記念品を延べ275人に配布しました。

② 在宅介護者の会『桜の会』の開催

在宅で寝たきりや認知症などの家族を介護している方の交流の場として、会合を年13回開催しました。

③ 「あんしん携帯カード」と「ふれあい・ほっとライン」の普及

75歳以上の一人暮らしの方を対象として、緊急連絡先やかかりつけの病院などを記載した「あんしん携帯カード」と、安心・安全のために自宅の電話機の周辺などに掲示する「ふれあい・ほっとライン」を民生委員・児童委員の協力のもと、新たに50の方に配布しました。

(2) 障がい者福祉活動の推進

おもちゃ図書館の運営

当事者および家族などからの利用申し込みにより随時開館し、年間延べ利用者30人の利用がありました。

(3) 地域福祉活動の推進

① ふれあい・いきいきサロン活動の支援と推進

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催されるサロンは少なくなりましたが、会場である自治会公民館などのサロンに出向き、講話やビデオ上映会、レクリエーションなどを行ったり、サロン特技ボランティアやその他の講師の派遣調整を行いました。

② 介護予防講座として、脳トレーニングの一環である「ふれあいマーじゃん」は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、一時休止していましたが、令和5年2月から再開し、年間延べ4回開催しました。

③ いきいきサロンボランティア「にこにこリズム体操」指導員研修会

いきいきサロンでの介護予防メニューの普及を支援する「にこにこリズム体操」指導員の方々（21名）に集まっただき、毎月第3金曜日にスキルアップ研修を行いました。

④ ふれあいフェスタの開催

広く一般の方に地域福祉を理解していただくために、各種福祉団体から実行委員を選出していただき、開催する予定でしたが、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止しました。

⑤ 自治会長会との連携

令和4年度も、賛助会員加入の依頼、共同募金への協力依頼、地区社協・ネットワーク委員会の事業についての説明や協力依頼などを行いました。

⑥ 民生委員・児童委員協議会との連携

毎月開催される民生委員・児童委員協議会へ参加し、「ひまわり友の会」などの実施案内、福祉委員活動への協力依頼などを行いました。

⑦ 地区社協・3校区地域福祉ネットワーク委員会の支援

筑穂地区社会福祉協議会、大分・上穂波・内野校区地域福祉ネットワーク委員会の運営を支援しました。

⑧ 福祉委員連絡会の開催

活動の交流や意見交換、研修などについて連絡会を7月12日に開催しました。

⑨ 地域福祉講座の開催

3月10日(金)に筑穂保健福祉総合センターにおいて、筑穂地区内のボランティア団体、自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員、福祉施設等を対象に、「活動再開の一步を～コロナに負けず元気に楽しくつながろう～」というテーマで地域福祉講座を開催し、約35人が参加されました。

(4) ボランティア活動の推進

① ボランティア連絡協議会との連携

日頃から関係者と連絡しながら、会議を計画していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止しました。

② ふれあい電話の実施

毎週水曜日に、一人暮らし高齢者などに対して電話による安否確認を行うボランティアサークルの活動を支援しました。

(5) その他の活動推進

① 福祉活動賛助会費

筑穂地区の福祉活動を促進するため、賛助会費募金について全戸にチラシを配布し、協力依頼しました。令和4年度筑穂地区福祉活動賛助会費 1,328,000円

② 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

③ 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。

④ 心配ごと相談の実施

民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、隔月で心配ごと相談所の開設をしています。令和4年度は、新型コロナウイルス感染予防を行いながら、年間6回行いました。

(6) 筑穂地区まちづくり協議会への参画

筑穂地区地域コミュニティの構築と活性化に向けた取り組みとして、筑穂地区まちづくり協議会の各種会議に出席し、組織運営・事業の実施や手順などについての打ち合わせや地域課題とその解決策についての協議を行いました。

◎庄内エリア 地域福祉推進事業報告

庄内地区社会福祉協議会・庄内地区地域福祉ネットワーク委員会活動の支援

(1) 高齢者福祉活動の推進

① 一人暮らし高齢者交流会の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、上区（8月）・中区（11月）・下区（2月）の三回に分けて実施しました。

② 三世代交流会「高齢者と庄内小学校4年生交流会」の開催

7月16日に飯塚吹奏楽団による演奏会を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小学4年生は不参加となり、高齢者44名、ネットワーク委員18名の参加となりました。

(2) 障がい者福祉活動の推進

庄内地区障がい者バスハイク

1月26日、5組10名参加で「いのちの旅博物館」を観覧しました。

(3) 児童・青少年福祉活動の推進

① 福祉体験事業

5月11日、庄内小学校4年生を対象に福祉体験（車いす、アイマスク）の授業を行いました。参加者数は、児童106名でした。

② 親子料理教室

12月17日、飯塚市食生活改善推進会の庄内地区の皆さんにご協力をいただき、小学生を対象とした料理教室を行いました。参加者数は、大人6名、子ども7名でした。

(4) 地域福祉活動の推進

① 自治会長会との連携

庄内地区社協や地域福祉ネットワーク委員会をはじめ、地域福祉活動について協力の依頼を行いました。

② 民生委員・児童委員協議会との連携

3役会、定例会に出席し、事業への参加要請や身近な情報提供などを行いました。また、生活支援体制整備事業で行ったアンケートをもとに庄内地区協議体で作成した「庄内地区ちよっと頼みたい有料サービス」の冊子を一人暮らし高齢者に配布していただくよう協力依頼しました。

③ 小地域福祉活動の推進

ア 福祉委員研修会を5月17日と1月20日、計2回行いました。

イ ふれあい・いきいきサロンの運営に対し、サロンの実施などの相談・支援を行いました。（令和4年度、13自治会で実施）

④ 地区社協・地域福祉ネットワーク委員会の支援

総会を5月13日、運営会議を10月25日と2月9日の計3回行いました。

(5) ボランティア連絡協議会の活動支援

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動範囲は限られましたが、定例会や植栽などに参加し、活動支援を行いました。

(6) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティーワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

- ② 共同募金運動への協力
自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金活動などに協力しました。
- ③ 心配ごと相談の実施
民生委員・児童委員、人権擁護委員である相談員の協力を得て、隔月1回の心配ごと相談を開設しました。
- ④ 支所だよりの発行
年間2回（9月15日、3月15日）に発行しました。
- ⑤ レクリエーション遊具（用具）の貸し出し
庄内地区の介護予防や子どもたちとのコミュニケーションツールの1つとして貸し出しを行いました。
- ⑥ ボランティア研修会
8月に計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になりました。
- ⑦ 男性料理教室
12月9日、飯塚市食生活改善推進会庄内支部の皆さんに協力をいただき、参加者10人、協力関係者を含め18人で料理教室を行いました。
- ⑧ 「いづかオータムフェスタ2022 ふれ愛庄内」への参加協力について
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になりました。

◎ 穎田エリア 地域福祉推進事業報告

穎田地区社会福祉協議会・穎田地区地域福祉ネットワーク委員会活動の支援

(1) 高齢者福祉活動の推進

- ① 給食サービスの支援
穎田地区社協、民生委員・児童委員協議会穎田支部の協力を得て、給食サービスを実施しました。
対象者：80歳以上の一人暮らしの方、毎月第3木曜日（年12回）、年間延べ629食
- ② 高齢者とボランティアのつどいの開催
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になりました。
- ③ 高齢者記念品配布事業の実施
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、高齢者のつどいは出来ませんでしたが、代替事業として、80歳以上の一人暮らし高齢者の方へ敬老祝いとして記念品を配布しました。
- ④ 健幸講座（飯塚市が主催）への協力
飯塚市が、フレイル予防・介護保険啓発・健幸ポイント事業の促進を目的として開催した「健幸講座」に共催として参加し、穎田地区の多くの方に健康づくりや健幸ポイント事業に興味を持っていただけるように、取り組みました。

⑤ 地域での福祉講話活動

颯田交流センターで行われている「ふれあい大学」で、住み慣れた地域で安心して過ごすために、健康づくりや生きがいがづくり、仲間づくりに関する講話をしました。

(2) 障がい者福祉活動の推進

手をつなぐ親の会活動の支援

4月24日(日)の総会、12月11日(日)のクリスマス会に参加しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、定時の定例会はまだ以前通りに開催されていませんが、電話での相談を行いました。

(3) 児童・青少年福祉活動の推進

① 3世代交流事業の実施

颯田地区体育振興会の協力を得て、3世代交流ボッチャ大会を開催いたしました。

(大人41名、子ども17名)

② 福祉体験、福祉ミニ講座

小中一貫校颯田校の小学4年生を対象に「認知症キッズサポーター養成講座」、「福祉体験(車いす、アイマスク、高齢者疑似体験)」を実施しました。

また、颯田地区の福祉活動や今抱えている課題について授業を行い、7年生との意見交換会を行いました。

③ 颯田子育てサポートジャムとの連携

毎月第1、第3木曜日に颯田高齢者福祉センターで開催されている「じゃむんち」の活動を支援し、親子でいつでも参加できる居場所づくりと、子どもに関する悩みを共有し、支援が必要な場合には、ジャムと社協がすぐに連携できるような体制づくりに取り組みました。

(4) 地域福祉活動の推進

① 自治会長会との連携

5月に自治会長会の総会に出席しました。颯田地域だよりの配布協力、赤い羽根共同募金、地区社協・ネットワーク委員会の事業についての協力依頼を行いました。

② 民生委員・児童委員協議会との連携

毎月第2水曜日に開催される定例会に出席し、福祉活動について連携を図りました。

③ 地区社会福祉協議会、地域福祉ネットワーク委員会の支援

ア 地区社協と地域福祉ネットワーク委員会の総会と、合同会議を年11回開催しました。

イ 颯田高齢者福祉センターの管理、運営を行いました。

(入館者：年間 3,226人)

(5) ボランティア活動の推進

訪問ボランティア団体「さつき会」活動の支援

毎月1回定例会に出席し、ケース検討など活動の支援を行いました。

(6) その他の活動の推進

① 日常生活自立支援事業の推進

支所コミュニティワーカー（福祉活動専門員）が、本所権利擁護センター専門員と生活支援員との業務連携を図る役割を担う推進員として、判断能力が不十分な利用者の生活を支援しました。

② 共同募金運動への協力

自治会、民生委員・児童委員、地区社協、行政との連携のもと、街頭募金、法人募金、戸別募金などに協力しました。

③ 心配ごと相談の実施

年6回、民生委員・児童委員や人権擁護委員である相談員の協力を得て、心配ごと相談所を開設しました。

④ 地域だよりの発行

年間4回（5月15日、8月15日、11月15日、2月15日）発行しました。

4. 会議、研修会

本会が開催した各種会議・研修会について報告します。

(1) 理事会（第88回～第93回）

回	開催日	議 題
88	令和4年6月10日	【協議事項】 1 令和3年度事業報告について 2 令和3年度資金収支決算報告について 3 令和4年度第1次資金収支補正予算について 4 評議員選任候補者の推薦について 5 第11回評議員選任・解任委員会の招集について 6 第54回評議員会の招集について 7 職員給与規程の一部改正について 8 事務局長の選任について
89	令和4年8月5日	【協議事項】 1 理事選任候補者の推薦について 2 評議員選任候補者の推薦について 3 第12回評議員選任・解任委員会の招集について 4 第55回評議員会の決議の省略（書面決議）について 5 筑穂保健福祉総合センター東棟・西棟熱源設備改修工事（空調設備）の契約締結について 【報告事項】 1 生活福祉資金特例貸付制度（緊急小口資金・総合支援資金）の経過報告について

90	令和4年8月26日	<p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 副会長の選定について 2 委員会委員の選任について <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 筑穂保健福祉総合センター東棟・西棟熱源設備改修工事（空調設備）の契約締結について
91	令和4年10月7日	<p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第90回理事会の継続審議について
92	令和4年12月15日	<p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 飯塚市福祉センター伊川の郷営業時間（入浴時間）について 2 内部登用制度（正職員転換規程）について 3 職員給与規程の一部改正について 4 穂波支所訪問介護事業所の廃止について <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会長及び常務理事の職務執行報告 2 総務委員会 委員長報告について 3 地域福祉委員会 委員長報告について 4 介護福祉委員会 委員長報告について
93	令和5年3月16日	<p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和4年度第2次資金収支補正予算について 2 令和5年度事業計画について 3 令和5年度資金収支予算について 4 定款施行細則について 5 処務規程の一部改正について 6 特別養護老人ホーム筑穂桜の園施設長の選任について 7 理事候補者の推薦について 8 職員給与規程の一部改正について 9 筑穂支所における給食業務の委託契約について 10 特別養護老人ホーム筑穂桜の園非常用自家発電機の設置について 11 積立金規程の一部改正について 12 第57回評議員会の招集について <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会長及び常務理事の職務執行報告について 2 地域福祉委員会 委員長報告について 3 飯塚市福祉センター伊川の郷について

(2) 評議員会 (第54回～第57回)

回	開催日	議 題
54	令和4年6月24日	【協議事項】 1 令和3年度事業報告について 2 令和3年度資金収支決算報告について 3 令和4年度第1次資金収支補正予算について
55	令和4年8月10日 ～8月22日 (書面表決)	【協議事項】 1 理事選任候補者の選任について
56	令和4年11月2日	【報告事項】 1 会長の交代について
57	令和5年3月23日	【協議事項】 1 令和4年度第2次資金収支補正予算について 2 令和5年度事業計画について 3 令和5年度資金収支予算について 4 理事候補者の選任について 【報告事項】 1 飯塚市福祉センター伊川の郷について

(3) 評議員選任・解任委員会 (第11回～第12回)

回	開催日	議題
11	令和4年6月9日	【協議事項】 1 評議員選任候補者の選任について
12	令和4年8月5日	【協議事項】 1 評議員選任候補者の選任について

(4) 総務委員会

回	開催日	議 題
1	令和4年11月29日	【協議事項】 1 飯塚市福祉センター伊川の郷営業時間について 2 内部登用制度 (正職員転換規程) について 3 職員給与規程の一部改正について

(5) 介護福祉委員会

回	開催日	議 題
1	令和4年11月25日	【報告事項】 1 介護保険等事業の実施状況について 【協議事項】 2 今後の訪問介護事業について

(6) 地域福祉委員会

回	開催日	議 題
1	令和4年11月28日	【協議事項】 1 委員会運営（委員長選出、副委員長選出） 【報告事項】 1 地域福祉事業の進捗状況について 2 令和5年度生活体制整備事業（新規事業）と第2期飯塚市地域福祉活動計画の策定（案）について
2	令和5年2月20日	【協議事項】 1 令和5年度地域福祉課事業計画（案）について 2 福祉団体等への助成金の交付の在り方について

(7) コミュニティワーカー会議：年11回開催

(8) 介護保険等事業別管理者会議：年23回開催

- ① 居宅介護支援事業管理者会議：年10回開催
- ② 通所介護事業管理者会議：年4回開催
- ③ 訪問介護事業管理者会議：年9回開催

(9) 人権・同和研修会

全職員対象に年1回以上の参加義務を課した。

（市内で開催される各種人権研修への参加又は、事業所で開催する人権研修への参加）

(10) 安全運転講習会

全職員対象年1回参加義務として実施した。

（事業所ごとなどの数カ所で少人数にて分散開催又は個人での研修動画の視聴）